

添付資料 埋蔵文化財発掘調査に関する結果資料（第2期終了報告書）

大阪府営東大阪新上小阪（第2期）住宅（建て替え）建設工事に伴う
新上小阪遺跡発掘調査

新上小阪遺跡（その2）発掘調査終了報告書

平成18年9月

財団法人 大阪府文化財センター

遺跡名称：新上小阪遺跡

所在地：大阪府東大阪市新上小阪

最終遺構面の面積：2535㎡

事業契約期間：平成17年4月1日～平成18年10月31日

調査担当：中部調査事務所 調査第2係

委託機関：大阪府住宅まちづくり部住宅整備課

遺跡の種類：集落域・生産域

遺跡の時期：弥生時代～近世

主要な遺構：竪穴建物跡・掘立柱建物跡・水田・島畠・溝・井戸・土坑・流路
杭列・ピット

主要な遺物：弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・サヌカイト製石器
石製品・木製品・魚骨・管玉・銅鏃

1. 新上小阪遺跡の概要

新上小阪遺跡は、東大阪市新上小阪に所在する。当遺跡の存在は平成 11（1999）年に実施された府教育委員会の試掘調査によってはじめてあきらかになったものである。その後の当センター（平成 13 年）と府教育委員会（平成 15 年）による調査が行なわれた結果、当遺跡が弥生時代にはじまり、古墳時代、古代、中世を主体とする、複数の時期にまたがる遺跡であることが確認されている。これまでの調査で、弥生時代や古墳時代の水田、古代の掘立柱建物跡などが検出されている。

今回の調査は府営住宅建て替えの第 2 期工事にともなうもので、前回までの第 1 期関連の調査地のすぐ東側に位置する 3 箇所を対象としている。府営住宅本体に相当するのが 1 区、その北側に位置するのが 2 区、南側が 3 区である（図 3）。調査面積は合計で約 2500 m²である。

2. 調査成果

(1) 基本層序（図 4）

地表面から約 0.9～1 m、旧府営住宅の造成土、近現代作土層を機械によって掘削した。

第 1 層 灰黄褐色細礫混じりシルトである。層厚 0.2～0.3m を測る。島畠に伴う耕作土である。府営住宅の基礎などのかく乱が著しく、全体に残りはよくない。

第 2 層 褐灰色細礫混じりシルトである。層厚約 0.4m を測る。島畠の高い部分にみられ、島畠の芯となる盛土と考えられる。1 層に比して細粒で、粘性が高い。

第 3 層 灰黄褐色細砂混じりシルトである。層厚 0.1～0.2m を測る。耕作土である。遺物は細片が多く、時期の同定は困難であるが、瓦器、須恵器、土師器など中世の遺物が出土している。

第 4 層 黄褐色細砂混じりシルト、層厚約 0.1m を測る。また、1 調査区中央、2 調査区北西隅で薄い洪水砂が確認できる。4 層の母材となる洪水砂であると考えられる。遺物は須恵器、土師器など古代の遺物が出土している。

第 5 層 紫黒色シルト混じり中～粗砂で、第 6 層の洪水砂を母材とした土壌化層である。層厚 0.15～0.2 m を測る。調査区全面でみられ、弥生時代後期～飛鳥時代の遺物を含む（遺物としては弥生時代後期が圧倒的に多い）。

第 6 層 層厚 0.5～1.2m の分厚い細～中砂を主体とする洪水砂である。第 5 層との境目にはマンガン、鉄分の沈着が著しい。本来的には第 5 層の母材と考えられるため、第 5 b 層とすべき層ではあるが、第 5 層除去後、上面のややよごれた印象の部分第 6 a 層とした。

遺物の出土は少ないが、ローリングを受けた土器片の他石包丁が出土している。

第 7 層 調査区の東西で堆積状況が異なっている。1 調査区西半、3 調査区では暗紫灰色の細～中砂混じりシルト（炭、植物遺体多く含む、灰色シルトブロック含む）で層厚 5 cm と薄い。上面で水田が行われており、よく攪拌されている。7 b 層は細～中砂を主体とする洪水砂層（7-3 層）である。層厚約 0.7～0.9m を測る。

1 調査区東半、2 調査区、3 調査区東端では 7 b 層の洪水砂はみられず、シルトを主体とする。7 b 層（7-2 層）は緑灰色シルト（細砂をラミナ状に含む部分があり、カルシウムを多く含む）。第 7 層（a 層）は暗紫灰シルトで植物遺体を多く含む。西半に比して、砂質が弱い。数枚に細分することが可能で

ある。遺物の出土は非常に少なかったがIV様式の甕が出土している。他に洪水砂からは木製高杯が出土している。

7・3層の洪水砂の堆積によって盛り上がった部分は水田として利用され、低い部分は、湿地状の環境であったと考えられる。

第8層 暗紫灰色シルト、植物遺体を筋状に多く含む。更に細分することが可能である。湿地状の堆積と考えられる。遺物の出土はみられない。層厚約0.1mを測る。

第9層 暗青灰色シルト混じり中細砂である。層厚約5～10cmを測る。9b層の洪水砂を母材とした土壌化層である。この上面には植物遺体を含む暗紫灰色中～粗砂混じりシルトの薄い堆積がみられた。9b層は細～粗砂を主体とする洪水砂である。層厚0.3～0.5mを測る。遺物の出土はほとんどない。

第10層 紫灰色細砂混じりシルト、青灰シルト（細砂、植物遺体が筋状にみられる）を主体とする自然堆積層である。層厚約0.2mを測る。

第11層 暗紫灰～青灰色シルトの弱い土壌化層として確認できる。層厚は5cmと薄く、調査区全体では把握できない。また、11b層である緑灰シルトは部分的に確認できるのみである。第11層からは、細片ではあるが弥生時代中期前半と考えられる土器の他、1、2調査区でサヌカイト製の石鏃が多数出土している。また、3トレンチで木鏃が出土した。

第12層 暗紫灰色シルト、調査区全面でみられた土壌化層である。暗色の強い部分と弱い部分がみられるものの、第11層、13層に比して暗色が強い。層厚約5cmを測る。第12b層は青灰シルトで薄く、場所によっては確認できない。遺物の出土はほとんどみられないが、サヌカイト製の石鏃、剥片が数点出土している。弥生時代中期前半ごろと考えられる。

第13層 暗紫灰～紫灰色シルトの薄い土壌化層である。炭を多く含む。第13層はa層b層のセットが複数みられたが、いずれも土壌化は強くなく、湿地状、地表化を繰り返した結果と考え、同一層とした。

第14層 紫黒色シルト、調査区全面でみられる黒色の強い土壌化層である。層厚は0.1mと比較的厚い。a層は下部に向かうほど、黒色が弱く、漸移的にb層に向かう。また、場所によって黒色の強弱が大きい。下面は植物根茎痕など生痕が著しい。b層は暗青灰色細砂混じりシルト～シルトで全体に東側は層厚が厚く、更に細分できる。西側では、非常に薄く、14a層と第15層が接する部分もみられた。

第15層 紫灰色細～微砂混じりシルトである。調査区全面でみられる黒色の強い土壌化層である。第14層と比して、暗色は弱く砂質が高い。層厚は0.1～0.15mと比較的厚い。下面は第14層と同様、生痕が著しい。この上面は安定した地表面であったと考えられるが、層内からの遺物の出土はみられない。

(2) 遺構面の概要 (図5～12)

第1面 旧府営住宅の造成土や近現代作土層などを重機によって約0.9～1.0m掘削して検出される面を第1面とした。当面は旧府営住宅の諸施設による攪乱が随所に見られ、結果として第1～3層或いは4層までもが露出する状況であった。特に3調査区の北側部分で攪乱の影響が顕著であり、第1面は遺存していない状況であった。

1～3の各調査区では東西方向に軸をもつ島畠(3調査区では不明瞭)・犁溝・土坑・ピット・杭などが検出された。それら以外に3調査区では、調査区南西端で大型の円形土坑を、調査区南側中央で井戸2基及び魚骨が多量に投棄された井戸を検出した。

第2面 基本的に島島以外の低地部分に広がる第1層（作土層）を除去して検出される面である。景観は島島の高まりが顕著になる程度で第1面と比べて大きな変化は認められない。当面も攪乱の影響が著しく、面の遺存状況は不良である。検出された遺構は第1面同様、島島・犁溝・土坑・ピット・杭などが中心である。これら以外に1調査区では調査区西半南側で新旧2基の切り合いを持つ井戸が3組・計6基、調査区中央部で1基の総計7基の井戸を、2調査区では調査区西端部で井戸1基を、3調査区では調査区北側中央で大型円形土坑を検出した。

1調査区の切り合いを持つ6基の井戸は全て井戸枠を有する。中でも、最西端に位置する1組（新しい方は一辺約4.8mの掘り方を持つ大型の井戸）は、太くしっかりした材木を使用し、非常に丁寧な井戸枠を構築している。また、この1組に使用された材木には多くの墨書や焼き印が残されている。

出土遺物は近世陶磁器が主体である。

第3面 島島の盛り土（第2層）を除去して検出される面である。島島が構築される以前の状態になるため遺構面はほぼ平坦になる。なお、3調査区では他の調査区に比して第2層が明瞭ではなかったため、結果として第2面と3面を同時に検出した状況である。

当面では島島盛り土の下から東西方向にはしるやや幅広で深い溝と犁溝を検出している。

出土遺物は少量の上、小片が多く器種・時期同定が困難であるが土師器、瓦器、瓦質播鉢などが見られ、中世所産のものが主体となる。

第4面 第3層を除去して検出される面である。

検出した遺構は第3面同様、東西方向にはしる犁溝やや幅広の溝が主体となる。溝以外では、1調査区東半部及び2調査区中央～東半部で、一気にブロック土で埋め戻されたと想定される大型の方形土坑群を検出した。これらの土坑はY=-37,455以東でのみ検出されるため、調査地の東西で土地利用の在り方が異なっていたものと推察される。但し、土坑群の性格は判然としない。

出土遺物は、第3面に比して出土量が少量で、かつ小片であるため器種・時期同定が困難であるが土師器、瓦器、白磁碗などがみられる。なお、1調査区の方形土坑1基から「て」の字状口縁土師器皿が出土しており、当遺構面は古代末～中世前半の所産と推定される。

第5面 第4層（黄褐色細砂混じりシルトまたは洪水砂）を除去して検出される面である。削平が著しいためか概して遺構の遺存状態は不良であった。しかし、遺構面全体的に多数の人や牛の足跡が残されている。

注目すべき遺構は洪水砂で覆われていた1調査区中央部で検出された水田遺構である。

北東～南西にはしる水路2条、島状高まり1基、北西～南東に延びる畦畔2条とそれに直交する北東～南西に延びる畦畔3条を検出し、それら畦畔に囲まれる水田6筆+ α を確認した。田面には特に多くの足跡が認められる。水田1筆の規模は東西約7m・南北約9m・面積は約63㎡を測る。

第6面 第5層を除去して検出される遺構面である。

弥生時代後期の集落を検出した。特に遺構が密集するのは1調査区東半部で、溝に囲まれた竪穴建物2棟（158・159竪穴建物）、土坑、溝などを検出した。

158竪穴建物は焼失住居で垂木と考えられる炭化木材が検出されている。周囲を巡る溝を含めた規模は東西約20m・南北約10m（南側は調査区外に広がる）を数え、建物自体の規模は東西約6m・南北約6.5m・面積39㎡を測る。159竪穴建物は第5面で確認した島状高まりの下層から検出された。周囲を巡る溝を含めた規模は東西約21m・南北約8m（北側は調査区外に広がる）を数え、建物自体の規模は

東西約 7.5m・南北約 3m（北側は調査区外に広がる）・面積 22.5 m²以上を測る。建物を巡る溝からは多くの土器が出土している。

また、1・3 調査区では掘立柱建物をあわせて 4 棟検出した。掘立柱建物は周囲を細い溝で囲んでいたと考えられる。最大のものは 1 調査区西端で検出した 274 建物で、主軸をほぼ磁北に合わせ南北 3 間（約 4.8m）・東西 1 間（約 3.7m）・面積 17.76 m²を数える。

他に 1 調査区西半部では、多くの土坑を検出した。土坑内では多量の土器が廃棄された状況を確認出来た。特に 250 土坑からは壺がまとまって出土しており興味深い。

2・3 調査区は 1 調査区に比して遺構・遺物とも希薄であったが、2 調査区では調査区南西部分において北西～南東にはしる平行する溝 2 条を、3 調査区では北西～南東にはしる平行する溝 3 条を検出した。これらの溝は集落を区画するものと考えられ、集落の規模を考える上で重要である。特筆すべき遺物としては、3 トレンチで壺内から出土した管玉が挙げられる。

第 7 面 第 6 層（分厚い洪水砂）を除去して検出される面である。

特筆すべき遺構として水田遺構が上げられる。水田は、1 調査区及び 3 調査区の Y=-37,470 ライン上で確認された土手状高まりよりも西側で検出出来た。畦畔はほぼ南北・東西を指向するものがある一方で、彎曲するものや、北西～南東に斜めに延びるものが見られる。両調査区で各 9 筆 + α の水田が確認出来る。田面には多数の足跡が残されている。

先述の土手状高まりより東側部分は、西側に広がる水田面よりも 0.2～0.3m ほど低くなっており、結果として 1 調査区東半・2 調査区では明瞭な畦畔を検出できなかった。しかし、1 調査区東半では南北方向に延びる 349 高まり（1 調査区）を検出している。この高まりは、本来第 9 面段階で形成されたもので、第 7 面段階まで使用されていたか否かは不明である。

なお、1 調査区西半部・3 調査区では噴砂を確認している。この噴砂は第 7 面の基盤層にあたる第 7 層が第 7 面を突き抜け、第 6 層中にまで到達するものである。

遺物の出土は少なく、時期の確定は困難であるが、349 高まり西斜面部で IV 様式甕が 2 個体ほぼ完形で出土しており、弥生時代中期後半の時期が想定できる。

第 8 面 第 7 層を除去して検出される面である。緩やかに堆積したと思われるシルト～粘土層の上部が弱い土壌化を示していたので面として捉えた。基本的に湿地状であり、各調査区では小さな高まりと低地部が展開し起伏のある地形であったことが確認できた。

第 9 面 第 8 層（緩やかに堆積した湿地状堆積の粘土～極細砂）を除去して検出される面である。

1～3 調査区の Y=-37,440～480 間で、ほぼ南北方向を指向する溝と高まりを検出し、1 調査区の Y=-37,440 以東及び Y=-37,480 以西では水田遺構を確認した。東側の水田遺構では、ほぼ南北・東西を指向する畦畔を 6 条検出した。これら畦畔に囲まれた水田は明確ではないものの 5 筆 + α である。一方、西側の水田遺構では、ほぼ南北・東西を指向する畦畔を各 1 条、北西～南東に延びる畦畔 1 条とそれに直交する北東～南西に延びる畦畔 1 条の計 4 条を検出した。これら畦畔に囲まれた水田は明確ではないものの 4 筆である。

なお、2 調査区の Y=-37,440 以東部分は、南西に開く浅い馬蹄形の小さな谷状の地形となり、谷底部分には北東～南西にはしる溝が確認出来た。また、この溝の南には不明瞭な畦畔状の低い高まりが数条確認出来たが、明確な水田とは認識出来なかった。

遺物の出土は少なく、時期の確定は困難であるが、弥生時代中期であろうと推定される。

第10面 第9層（分厚い洪水砂）を除去して検出される面である。

1～3調査区の $Y=-37,460$ ライン以西では高まりと低地部が広がり、起伏のある地形が展開する。一方、1～2調査区の $Y=-37,460$ ライン以东では溝や高まりが検出され、西側部分よりも起伏が大きい。特に、 $Y=-37,470$ ライン以东では、高まり5本（第12面で構築された北東～南西に延びる堤状の高まり4本・盛り土を持たず第10層が盛り上がっただけの高まり1本）と溝4条（2調査区では堤状の高まり2本と溝2条分）の最終埋没状況が検出された。高まりは第9層をもたらせた洪水によって破堤し、部分的に途切れた箇所が認められる。溝には分厚い洪水砂（層厚約0.8m）が溝側壁を挟りながら堆積している。このため、本来の溝内埋土はかなり流出したものと推察される。

また、2調査区 $Y=-37,470\sim 460$ 間で北西～南東に流れる自然流路を1条検出した。この流路も上記の溝群と同様に分厚い洪水砂によって埋まっていた。

遺物の出土は少なく、時期の確定は困難であるが、弥生時代中期の所産と推定される。

第11面 第10層を除去して検出される面である。但し、1調査区の $Y=-37,485$ ライン以西では明瞭な土壌層が認められず、当面を認識することが出来なかった。高まりと低地部分が広がる景観で第10面と大きく変わらない。

遺物の出土は少なく、時期の確定は困難であるが、弥生時代中期の所産と推定される。

なお、第11面の基盤層となる第11層中からは1～3調査区で50点近い石鏃・1点の木鏃が出土しており注目される。これらの石・木鏃は、第11面で放たれたものが対象物に命中せず落下して第11層に潜り込んだものと想定され、当面が狩猟場に適した環境であったことが推察される。

第12面 第11層を除去して検出される面である。第11面とは異なり、調査区全面で黒灰色を呈する強い土壌層が確認された。

明瞭な遺構は、1・2調査区の $Y=-37,470$ ライン以东で北東～南東に並行する溝5条が挙げられる。溝間には堤状の高まりがみられる（2調査区では溝2条及び堤2本）。

堤は基底部分で幅約1.2m前後を測り、溝を掘削した際の排土を溝肩に0.6～0.8m（検出高）の厚さで盛り上げ、断面蒲鉾型に構築している。第10面で先述したように堤は洪水によって部分的に破堤した状況を示しているため、本来の規模がより大きなものであったことは想像に難くない。なお、堤上には立ち木が並んでいる状況が見られた。

溝は断面逆台形を呈し、上端幅2～3m・下端幅1.2～1.4m・掘削面からの深さは0.6～0.7mを測る。従って、堤頂部から溝底までの比高差は1.3～1.4mを数え、溝底から両側面を見ると巨大な壁が聳え立っているように見える。溝埋土は黒褐色シルトと淡い緑灰シルトのブロック土であり、堤の盛り土の崩落土によって埋まったと思われる。

第13面 第12層（暗紫灰色シルト～緑色シルト）を除去して検出される面である。

緩やかに堆積したと思われるシルト～粘土層の上部が弱い土壌化を示していたので面として捉えた。基本的に湿地状であったことが判明した。概ね地形は、1調査区では調査区中央付近の $Y=-37,470\sim 450$ 間が高く、それよりも西側は南東から北西に、東側では北西から南東に緩やかに傾斜する。2調査区は1調査区東側と同様で、北西から南東に緩やかに傾斜する。3調査区は $X=-149,700$ ラインに向け南北両側から緩やかに傾斜している。

第14面 第13層（暗紫灰色シルト～緑色シルト）を除去して検出される面である。

緩やかに堆積したと思われるシルト～粘土層の上部が強い土壌化を示していたので面として捉えた。

概ね地形は、1 調査区では調査区中央付近の $Y=-37,480\sim 460$ 間が高く、それよりも西側は東から西に、東側では西から東に緩やかに傾斜する。2 調査区は北西から南東に緩やかに傾斜する。3 調査区は $Y=-37,480$ ライン付近を高所とし、東西両側に傾斜する地形である。なお、3 調査区西側の傾斜は、第 15b 面で形成されれば南北に流れる自然流路の最終埋没状況を示すものである。この流路の最終埋没状況は 1 調査区でも確認されるが第 14b 面においてである。

第 15 面 第 14 層（紫黒色シルト～緑色シルト）を除去して検出される面である。

緩やかに堆積したと思われるシルト～粘土層の上部が強い土壌化を示していたので面として捉えた。概ね地形は、1 調査区では調査区中央付近の $Y=-37,480\sim 460$ 間が高く、それよりも西側は東から西に、東側では西から東に緩やかに傾斜する。なお、 $Y=-37,490$ ライン付近で第 15b 面において形成される南北方向の自然流路を確認している。2 調査区は $Y=-37,450\sim 440$ 間が尾根状に高くなり、東西両側に緩やかに傾斜する。尾根上部分では幅 0.15m 前後の溝状遺構が南北方向に 3 条・東西方向に 1 条検出された。また、2 調査区西側の傾斜は 1・3 調査区で検出している自然流路に繋がるものと想定される。3 調査区は $Y=-37,480$ ライン付近を高所とし、東西両側に傾斜する地形である。なお、3 調査区西側の傾斜は、第 15b 面で形成されれば南北に流れる自然流路である。

まとめ

今回の調査では各面にわたって、人々の生活の痕跡を確認することができた。ここで簡単にまとめた。

今回の調査区の西側で行われた調査報告書（2003 （財）大阪府文化財センター 新上小阪遺跡）で指摘されているように、新上小阪遺跡の堆積環境は大きく 3 つの段階に分けて考えることができよう。

1 つは第 1 層～第 3 層で、大きな地形の変化はみられない。基本的には島畠などの耕作地として利用されている。時期は近世～中世である。

2 つは第 4 層～第 13 層である。粘性の高いシルトの土壌化層と厚い洪水砂を中心とした氾濫堆積物が繰り返しみられるもので、地形の変化が著しい。そういった中で弥生時代後期以降には安定した状況がみられる。第 5 層は弥生時代後期～飛鳥時代の遺物包含層であるが、長期にわたって地表となり、土壌化が進行したものと考えられる。特に今回の調査区では 6 層上面（第 6 面）で、弥生時代後期の集落が検出されている。なお、近接する調査では古墳時代前期の集落が確認されている。第 4 層の母材となる b 層は今回の調査区では薄く 4-2 層（洪水砂）として、一部で確認されたのみであったが、近接する調査では古代の建物などが検出されている。弥生時代後期末以前は、大規模な洪水によって地形の変化を受けながらも、第 7、9 面で水田がみられ、生産域として利用されていたと考えられる。遺物は全般に少ないが弥生時代中期と考えられる。第 12 面では、堤をもつ溝が並行して掘削されている。その機能については不明であるが、周辺の調査に期待されるところである。

3 つは第 14、15 層である。いずれも粒子が細かく、緩やかな堆積状況が考えられ、安定して地表化していることが分かる。今回の調査では遺物等の出土はなかったものの、2 調査区第 15 面で溝状の遺構を検出しており、興味深い結果となった。

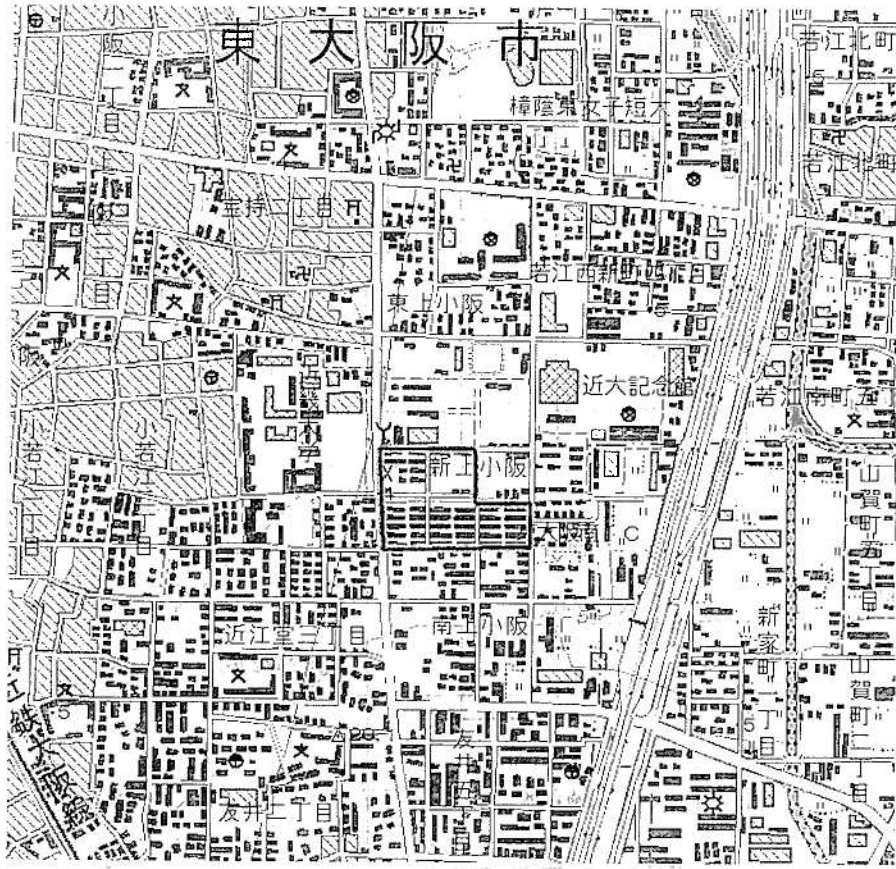


図1 新上小阪遺跡位置図

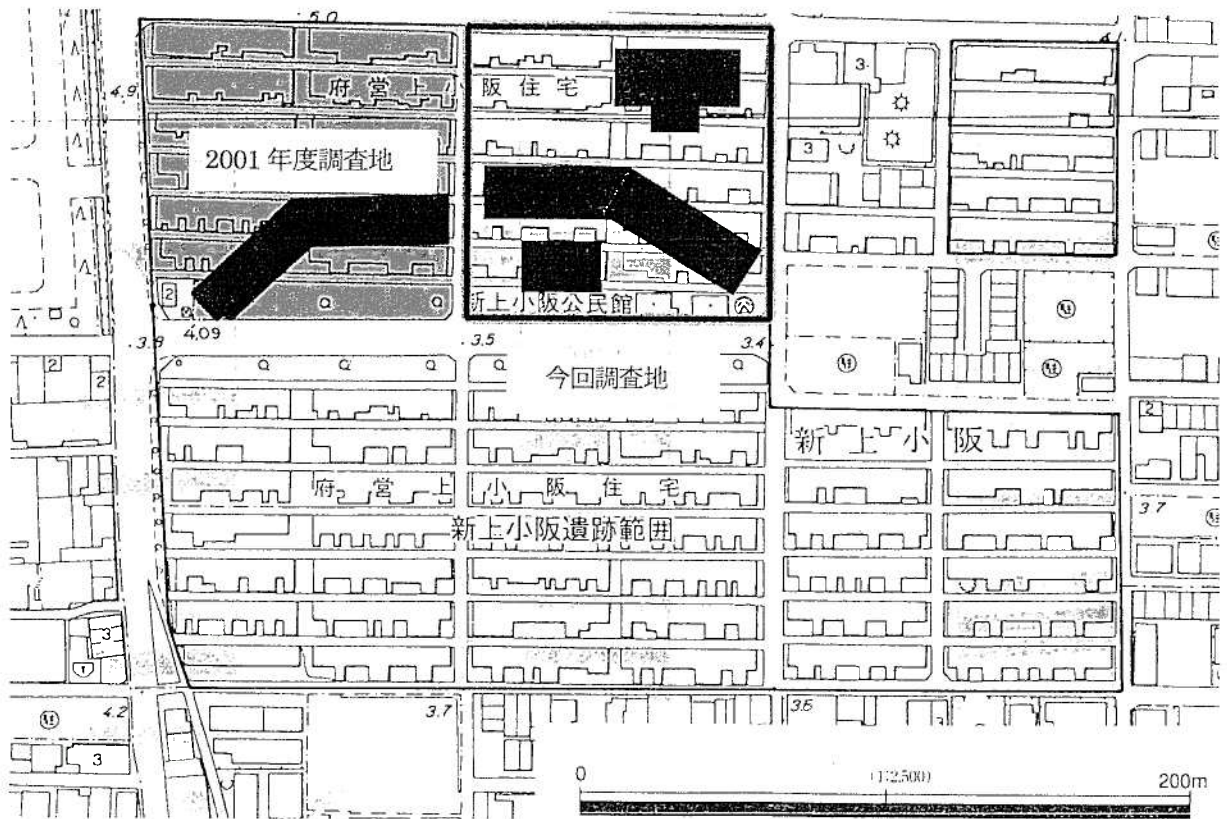


図2 新上小阪遺跡の範囲と今回調査地

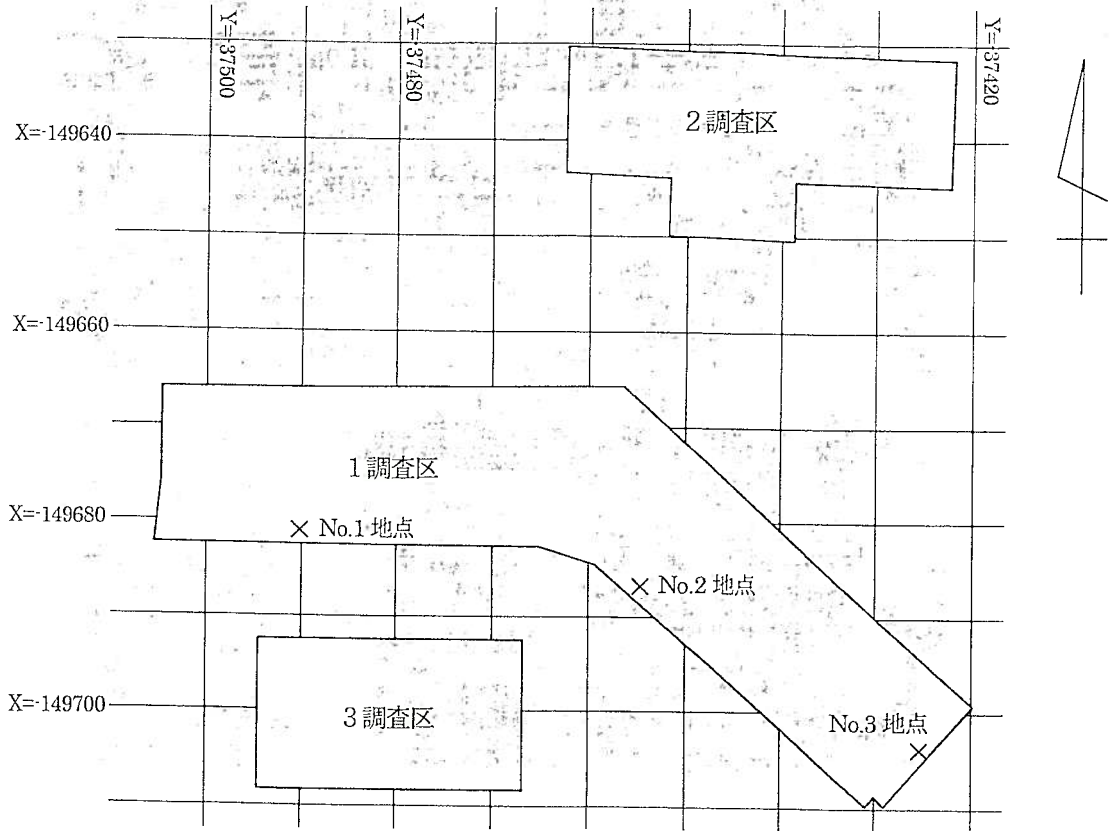


図3 新上小阪遺跡05-1 調査区配置図 (S=1/800)

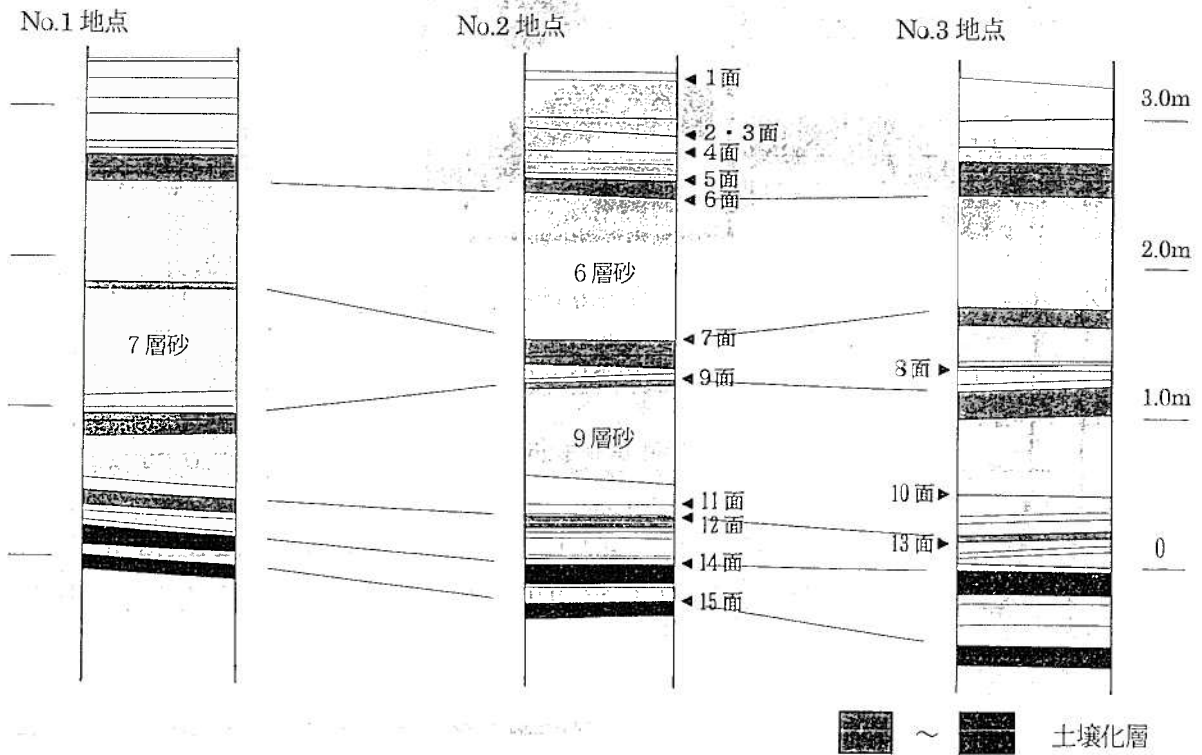


図4 新上小阪遺跡基本層序

第2面

凡例



井戸

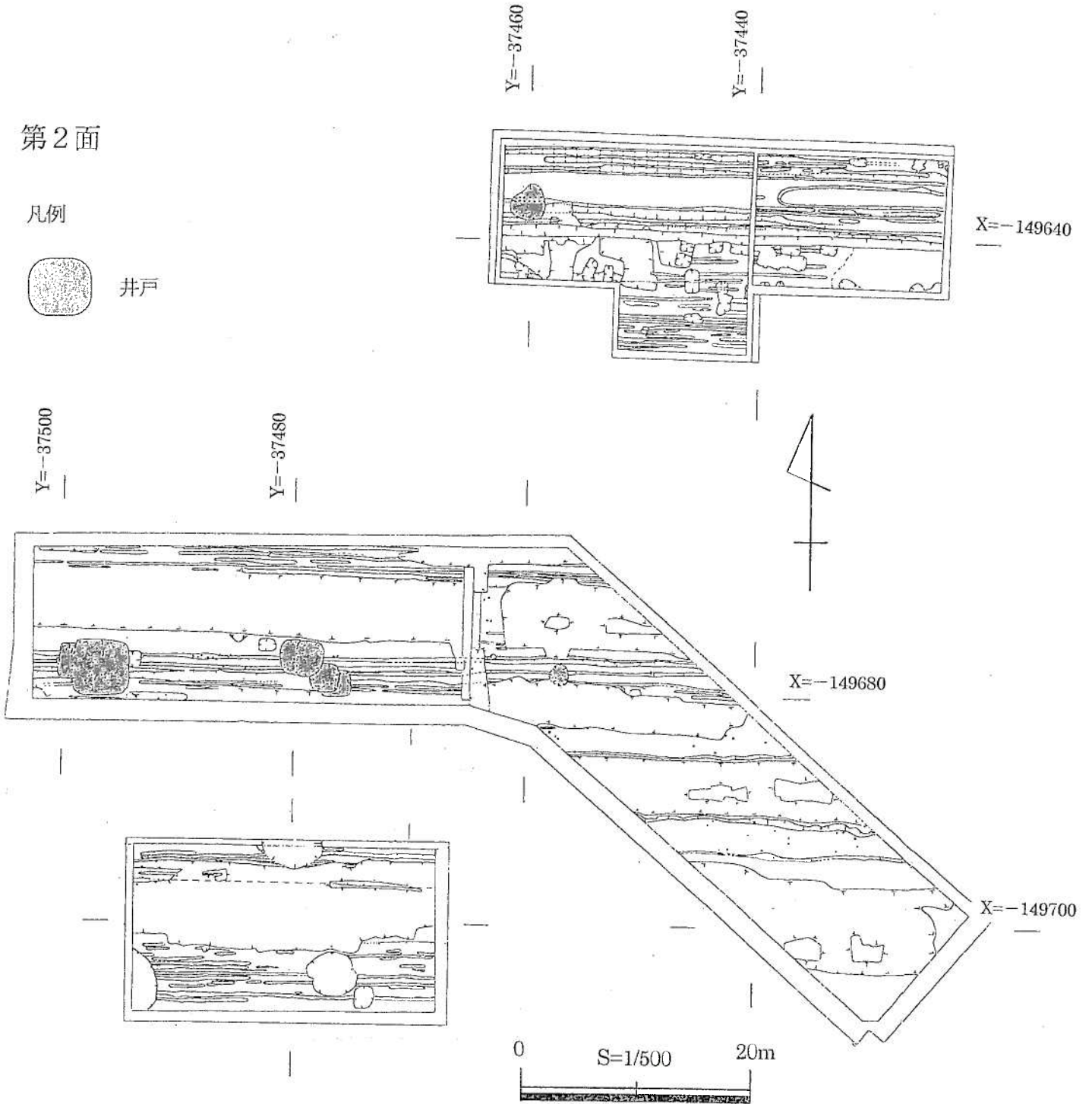


图5 第2面平面图

第4面

凡例



土坑

Y=-37460

Y=-37440

X=-149640

Y=-37500

Y=-37480

X=-149680

X=-14970

0 S=1/500 20m

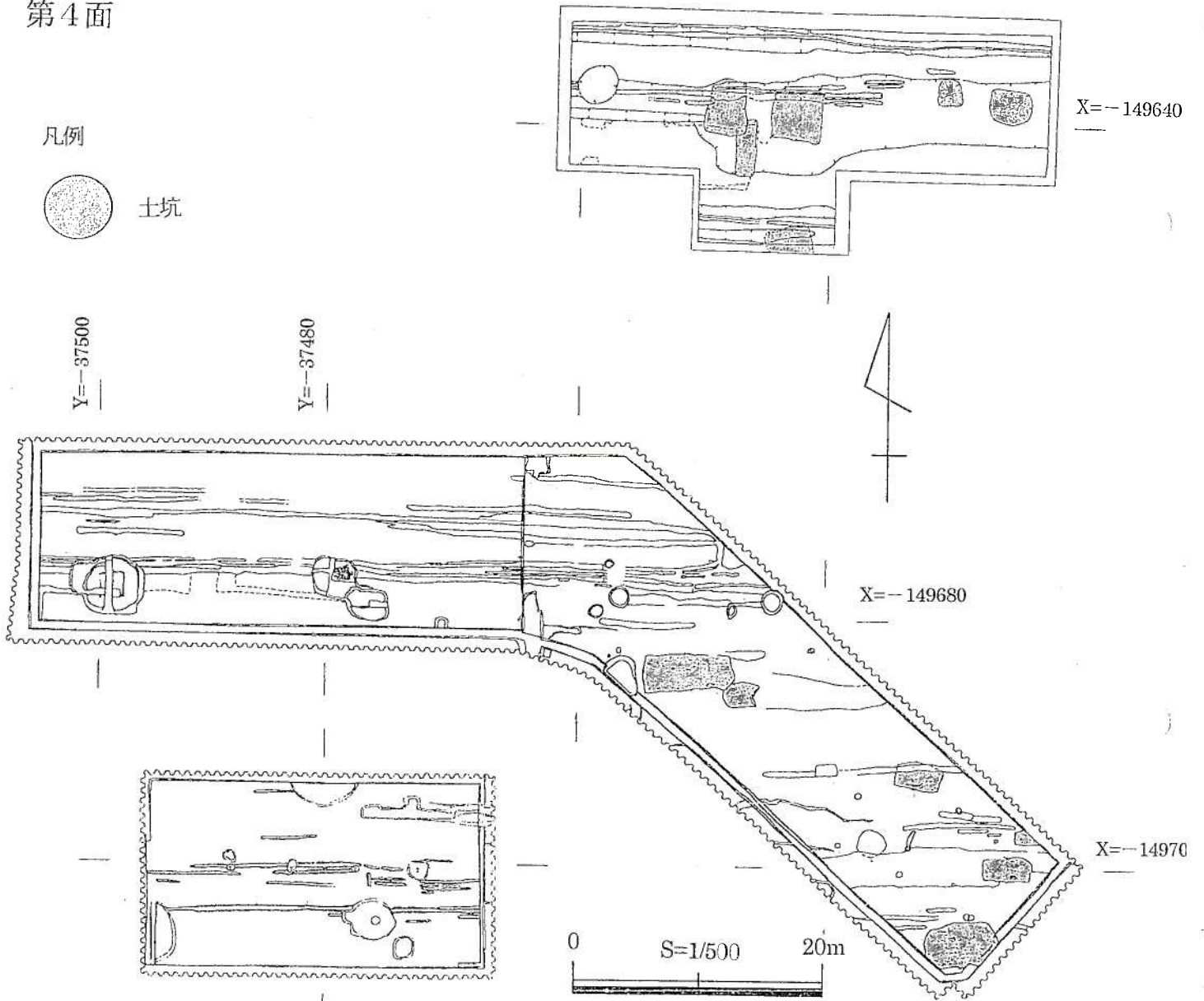
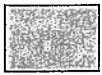


图6 第4面平面图

第5面

凡例



畦畔・高まり

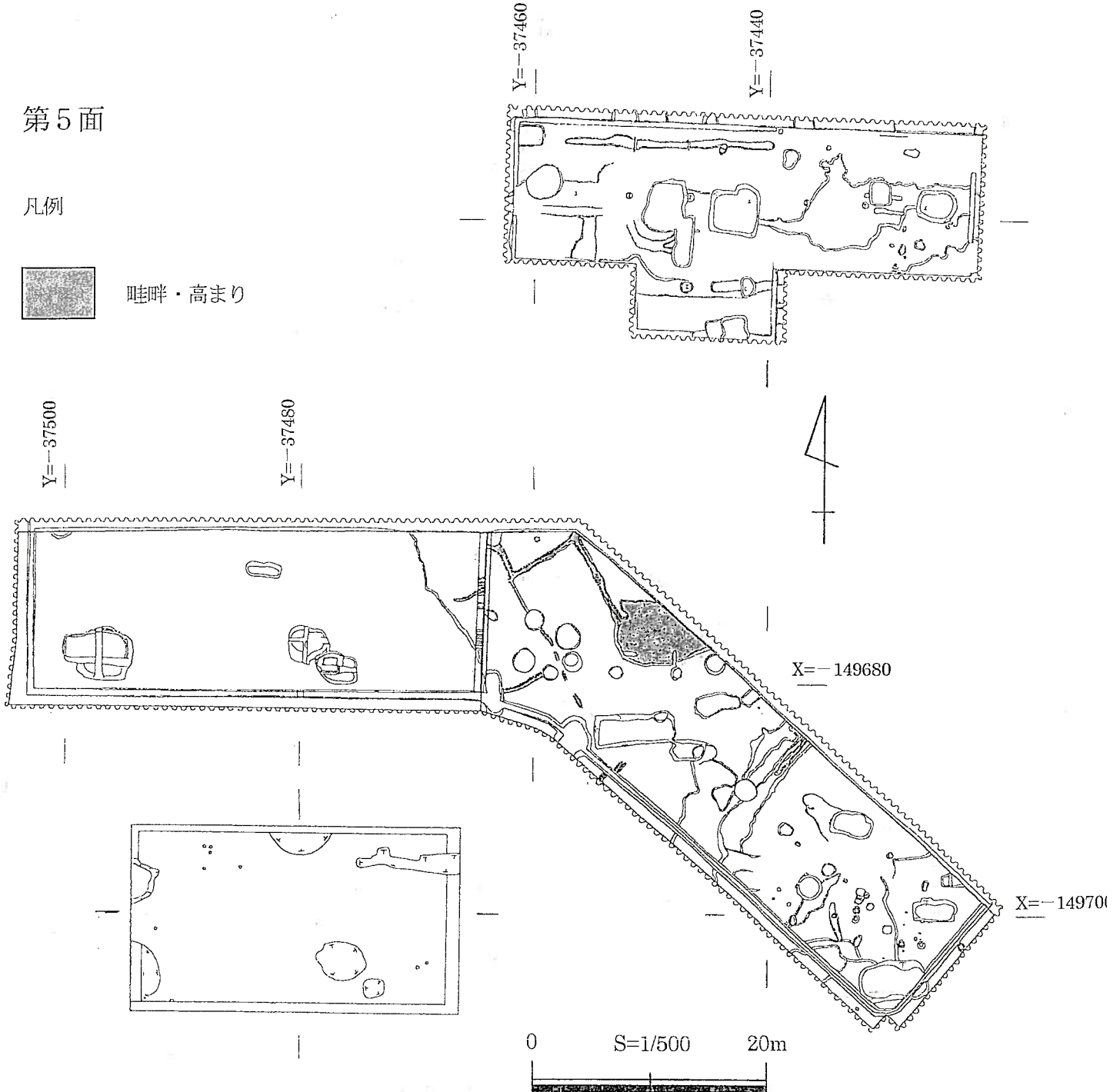
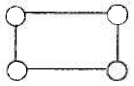


图7 第5面平面图

第6面

凡例



掘立柱建物跡

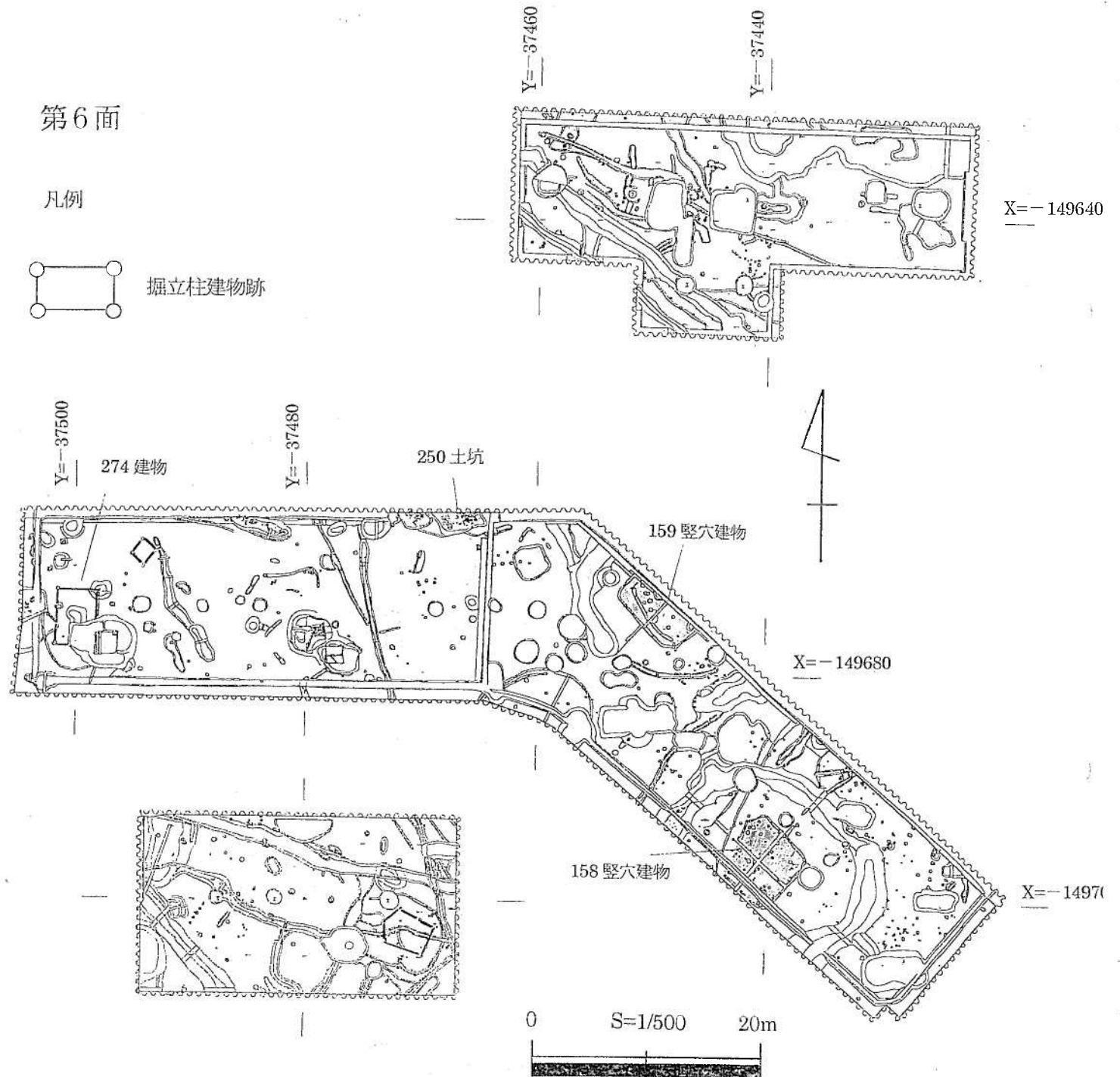
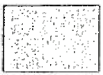


图8 第6面平面图

第7面

凡例



畦畔・高まり

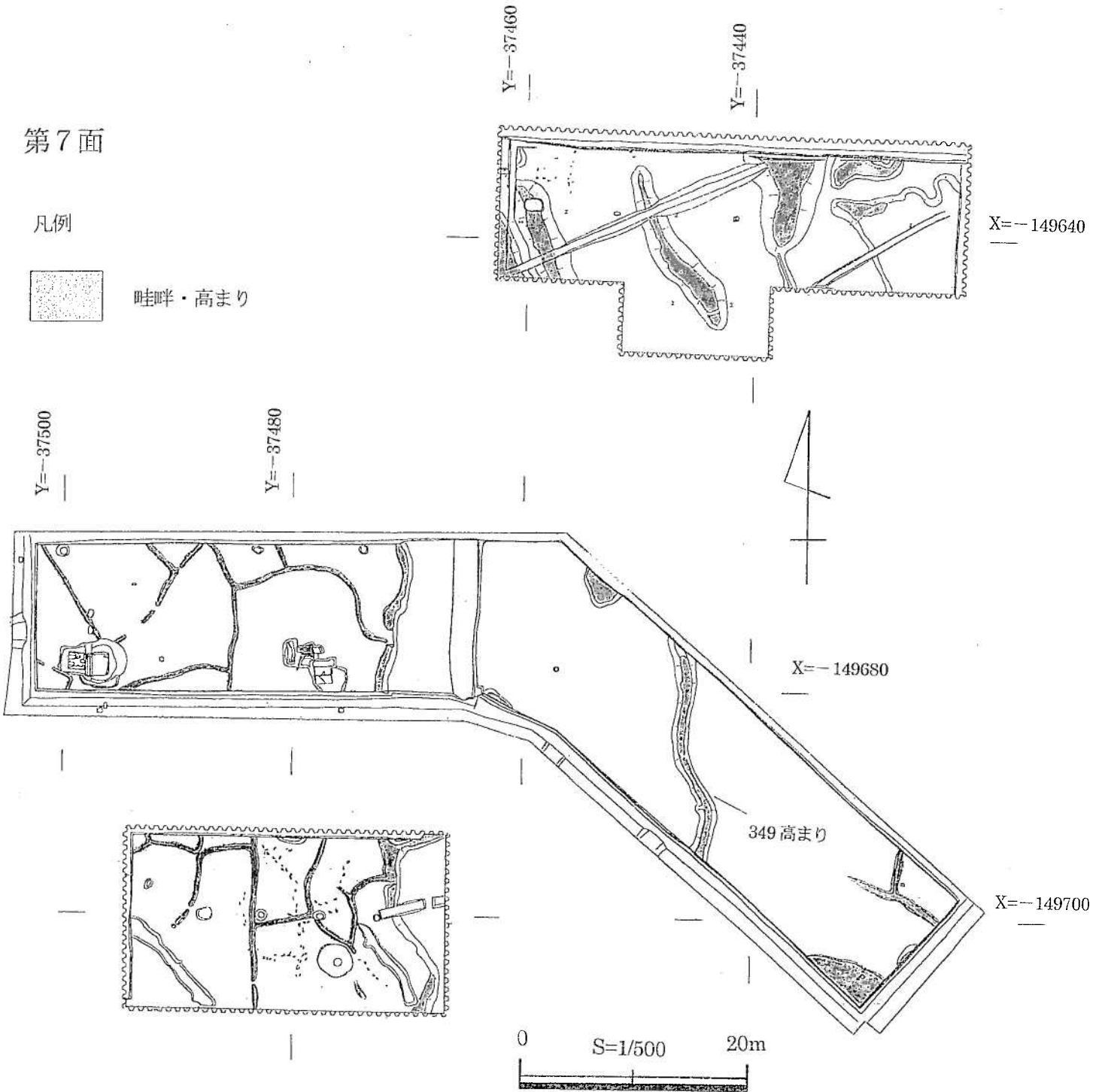
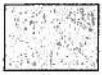


図9 第7面平面図

第9面

凡例



畦畔・高まり

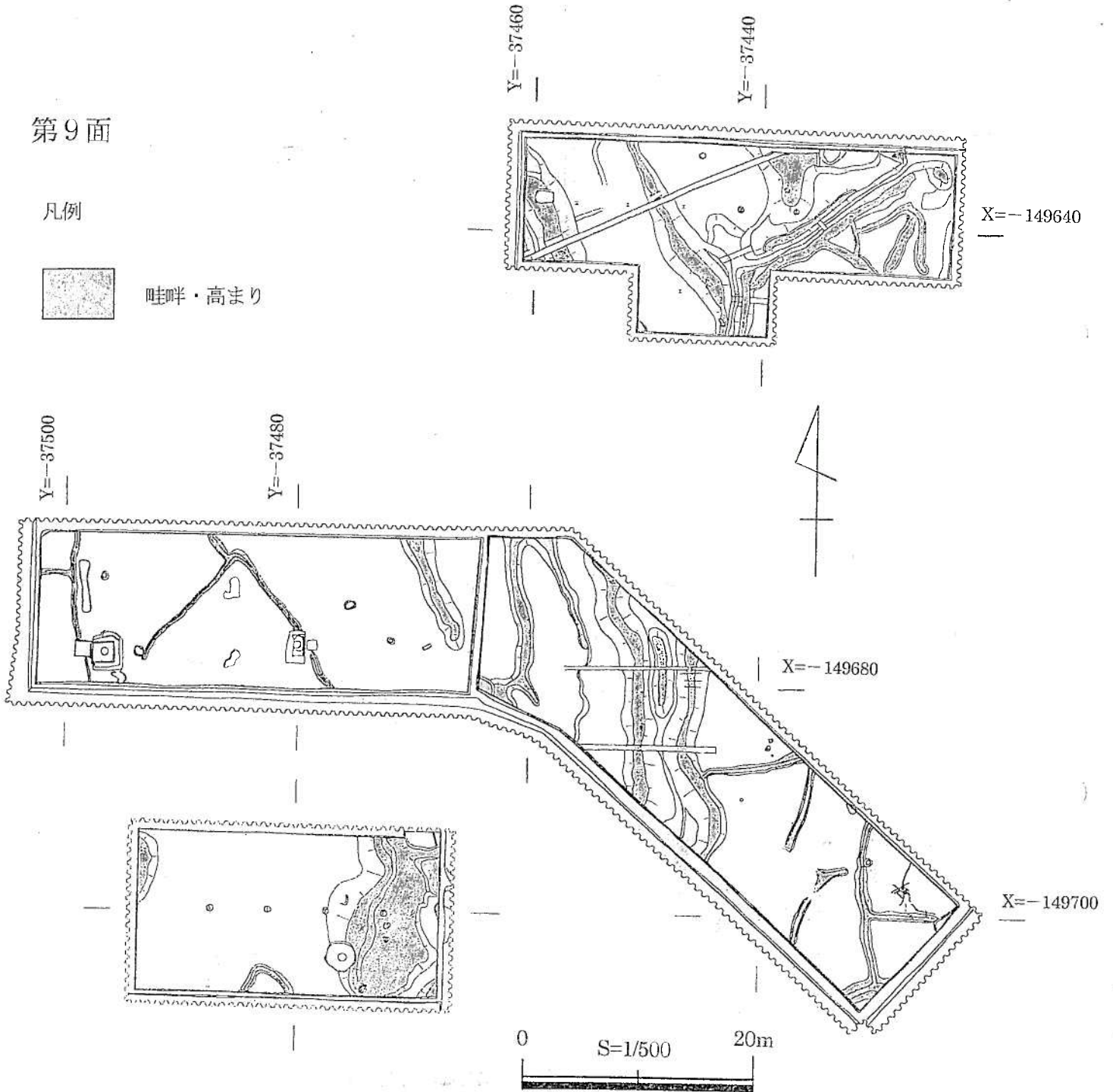


图10 第9面平面图

第12面

凡例



溝

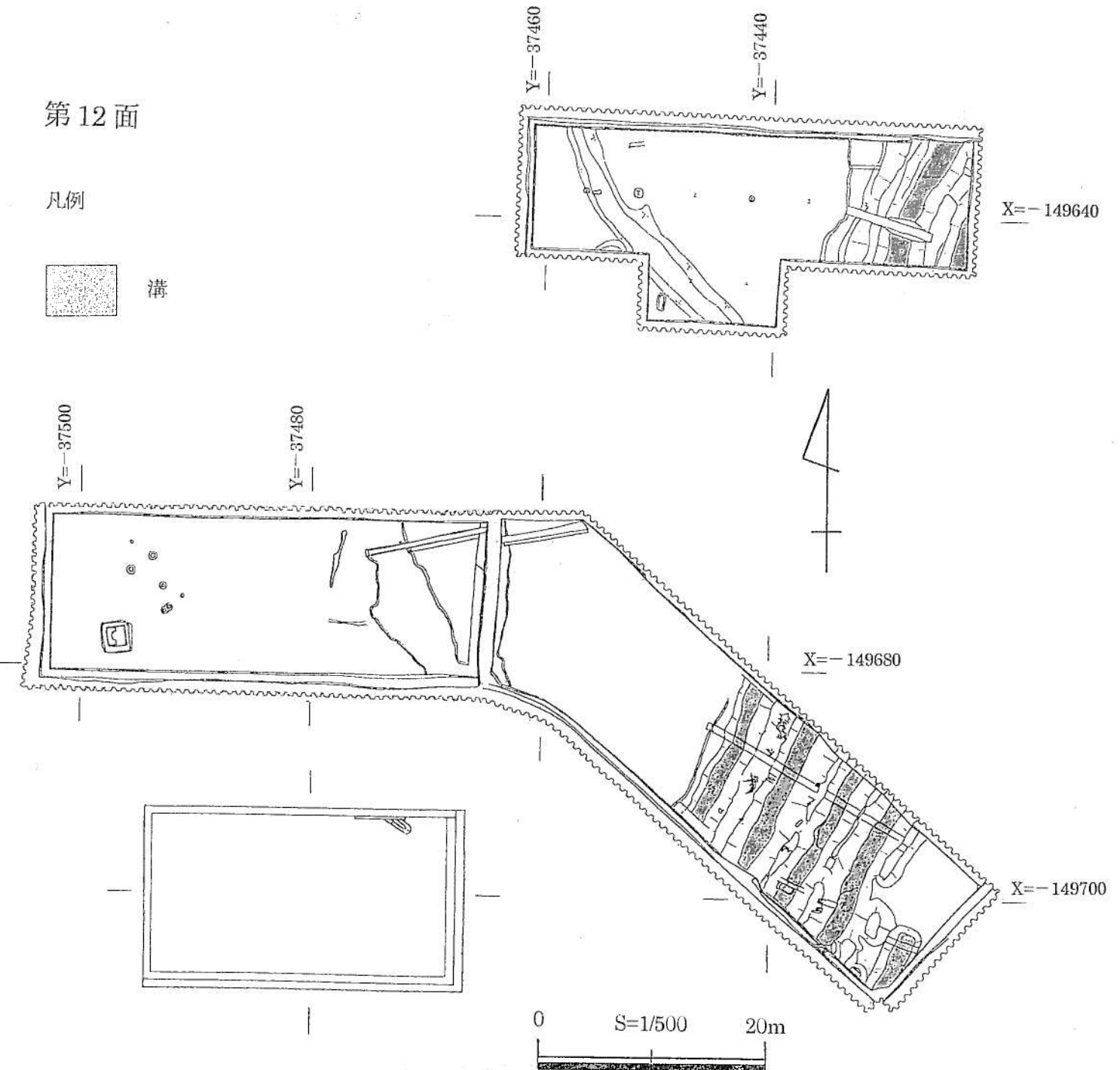


图11 第12面平面图

第 15 面

凡例



沟状遗构

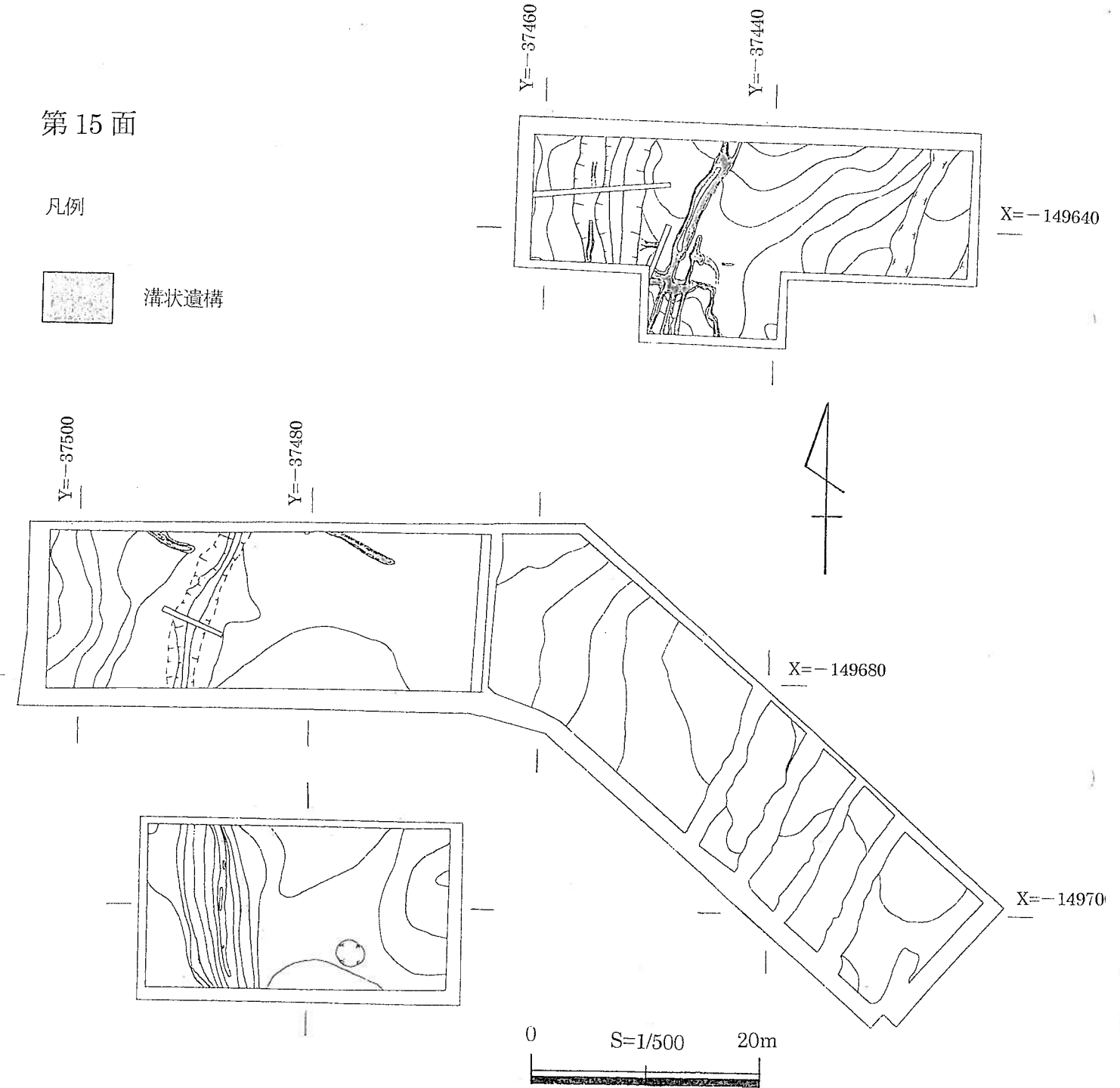


图 12 第 15 面平面图